

令和三年度 夏期平和事業



写真1 熊本駅に到着した米第2海兵師団第8戦闘隊を見守る市民
1945年11月6日撮影
長崎原爆資料館提供



三井染料軍楽隊による米海兵隊の
歓迎演奏（海兵隊フィルムより）
吉村陽夫氏提供

戦後76年を迎えましたが、第二次世界大戦の悲惨さ・傷跡は世界各地に残存して多くの国民の胸に強く刻まれています。今日、大国間では軍事・経済の対立が先鋭化して戦争・紛争の危険性が高まっています。

今年の「夏期平和事業」は、講演「米進駐軍の見た大牟田・熊本のカラー映像」により、米進駐軍の占領政策の一端を認識し、空襲体験講話で恐怖と多くの転校などの辛苦を体験されたこと。そして、初めて兵隊体験講話があり、海軍通信兵の教育・訓練が語られてご来場の皆様・市民と共に＜命と平和＞の大切さを考える機会となることを期待しています。

とき：令和3年(2021年)8月1日(日)

午後2時開演、4時25分終了(予定)
(1時30分開場)

ところ：大牟田市中央地区公民館

2階 研修室A

申込不要、問合せ先電話

0944-53-8780 (三池カルタ・歴史資料館)

090-2990-6701 (大牟田の空襲を記録する会)

※ 資料代：300円 (高校生以下無料)

◎新型コロナウイルス感染防止のお願い・・・マスク着用、
手指消毒。発熱・体調の悪い方は参加ご遠慮ください。

【第一部】

空襲体験講話：橋本嶺子さん

海軍通信兵体験講話：高須信芳さん

【第二部】 講演

「米進駐軍の見た大牟田・熊本のカラー映像」

講師：高谷和生さん

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表
戦争遺跡保存全国ネットワーク 全国運営委員
空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区
交流会 世話人

大牟田市立三池カルタ・歴史資料館
大牟田の空襲を記録する会

共催

(後援：大牟田市・大牟田市教育委員会)